

シラバス

講座名	現代の国語	学年	1 年
単位数	2 単位	留意点	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す授業ですので、文章作成や発表に積極的、主体的に取り組んで欲しい。
選択・必修	必修		
教科書	新現代の国語（三省堂）		
副教材等	国語便覧・常用漢字1・2トライ		

「現代の国語」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

時数		単元名・単元の目標	教材	学習活動
1	4	1 わかり合うために ●情報を要約する	届く言葉、届かない言葉	1 文章を読み、概要を把握する。 2 三つの事例を中心に三段落に分ける。 3 主張と事例の関係を捉え直す。
2				
3				
4				
5		1 わかり合うために ●情報を読み解く	「伝え合いに大事なことを考える」 ●情報を読み解く	1 「国語に関する世論調査」によると、相手との伝え合い（コミュニケーション）では何が重視されているか考える。 2 相手との伝え合い（コミュニケーション）の中で自分が重視していることは何か、考える。 3 考えたことをまわりの人と話し合う。
6				
7				
8				
9	5	1 わかり合うために ●自分の考えを表現する	意見文を書く	1 意見文の書き方について理解する。 2 身の回りの出来事に興味を持ち、問題化できるようにする。 3 校内弁論大会に向けて、自分の意見を聞く人が納得できるように主張を明確にしながら書く。
10				
11				
12				
13	6	2 確かな情報を伝えるために ●情報と適切につきあう	ひとまず、信じない	1 文章を読み、概要を把握する。 2 「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明する。 3 情報と適切につきあう方法について話し合う。
14				
15		2 確かな情報を伝えるために ●情報を適切に編集する	「情報を編集し、的確に発表する ―パブリックスピーチ―	1 情報を適切に扱うにはどうすればよいのかについて、「情報はつくられる」「ひとまず、信じない」なども参考にしながら考える。 2 自分で調べた資料を加えて考えをまとめる。 3 まとめた自分の考えを3分間で発表する。
16				
17				
18				
19	7	4 よりよい読み手になるために ●説明の方法を理解する	水の東西	1 この文章で筆者が、何と何を、どのように比較しているかに注意して読む。 2 それぞれの部分で、筆者の主張がどのような事実に基づいているかを整理・分析する。
20				
21				
22				
23		6 説得力を高めるために ●引用の目的やはたらきを理解する	折々の言葉	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者が芦田愛菜さんの文章を引用した意図を、推論する。 3 引用の効果をふまえて自分の「折々のことば」を見つけ、記録する。
24				
25				
26				
27				

シラバス

講座名	現代の国語	学年	1 年
単位数	2 単位	留意点	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す授業ですので、文章作成や発表に積極的、主体的に取り組んで欲しい。
選択・必修	必修		
教科書	新現代の国語（三省堂）		
副教材等	国語便覧・常用漢字1・2トライ		

「現代の国語」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

時数		単元名・単元の目標	教材	学習活動
28	9	6 説得力を高めるために ●説明の仕方を考える	宝さがしみたいに本の世界へ入っていきます	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の「読書の楽しみ方」や「本との出会い方」をまとめよう。
29				
30				
31		6 説得力を高めるために ●情報を活用する	ブックトークにチャレンジ	1 自分の好きな本やおもしろいと思った本の紹介を書こう。 2 「宝探しみたいに本の世界へ入っていきます」を参考に、実際に「本に触れる」ことをテーマとした提案をする。 3 次の手順を参考に、実際にブックトークをする。
32				
33				
34	10	3 情報を生かすために ●情報を集めて選ぶ	人が死なない防災	1 文章を読み、概要を把握する。 2 「正常化の偏見」と「認知不協和」について、自分の体験をもとに説明する。 3 筆者の考える、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 4 「『逃げる住民』をどうやってつくるのか」という筆者の問いかけに対するあなたの考えを提案する。
35				
36				
37				
38		3 情報を生かすために ●情報を整理する	減災学をつくる	1 文章を読み、概要を把握する。 2 減災のためのツールをつくる時に最も大切なことは何か、筆者の考えを説明する。 3 筆者の考えるハザードマップの問題点を、整理する。
39				
40	11	5 場に応じて伝えるために ●相手を意識して自分の考えを伝える	構成や展開を意識して発表するープレゼンテーション	1 聞き手を意識して、五枚のフリップを使った方法を確認する。 2 教科書の「学習活動2」にある問題などを参考にしてテーマを設定し、プレゼンテーションのフリップと発表原稿を作成する。
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48	12	4 よりよい読み手になるために ●さまざまな視点から情報を捉える	コインは円形か	1 文章を読み、概要を把握する。 2 文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張をつかむ。 3 筆者の示す「理由」は、どのような事例に支えられているか、まとめる。
49				
50				
51				
52				
53				

シラバス

講座名	現代の国語	学年	1 年
単位数	2 単位	留意点	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す授業ですので、文章作成や発表に積極的、主体的に取り組んで欲しい。
選択・必修	必修		
教科書	新現代の国語（三省堂）		
副教材等	国語便覧・常用漢字1・2トライ		

「現代の国語」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

時数		単元名・単元の目標	教材	学習活動
54	1	7 説得力を高めるために ●ある事実をもとに未知の事柄を推し量る	檻の中の町	1 教科書152～153ページの写真を見て、感じたこと（写っているもの、人々の生活など）を書き出す。 2 154ページ以降の文章を読み、写真で伝わること、文章で伝わること、写真と文章で伝わること、それぞれの違いを指摘する。
55				
56				
57		7 説得力を高めるために ●情報を関係づけてまとめる	小さな哲学者	1 文章を読み、概要を把握する。 2 筆者の伝えたかったことは何か、まとめよう。 3 「檻の中の〃街、」と読み比べ、表現上の特色を指摘する。
58	2			
59				
60				
61		7 説得力を高めるために ●伝えることの意味や方法を理解する	パネルディスカッション	1 さまざまな意見を出し合う話し合いの一つとしてのパネルディスカッションの方法について知る。 2 「パネルディスカッションの例」にあるパネラーの立場で、「檻の中の街」「小さな哲学者」の筆者の伝え方を評価する。 3 「パネルディスカッションの例」にある手順を参考に、司会者となってさまざまな意見を出し合う話し合いを行う。
62				
63				
64		8 よりよい書き手になるために ●自分なりの考えをまとめる	情報を活用して説得的に書く 一小論文	1 共通するテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事例を用いて書く。
65				
66				
67				
68				
69	3	まとめ ●世界を言葉で広げる	言葉で世界を豊かにする	1 教科書204～205ページのイラストを見て、感じたことや考えたことをメモする。 2 イラストにタイトルとコピーをつける。
70				

評価の方法

- ・三観点の評価規準については、各単元ごとに授業で説明します。
- ・授業では、適宜小テストを実施する予定である。
- ・小テストは、重要語句・語法に関するものを毎時間実施し、小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・夏休み中に、学習が遅れぎみな者に対する指名補習と、進学を希望する者を対象とした実力アップ補習（希望者）を実施する予定である。
- ・評価は、定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に、出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。
- ・定期考査は、中間考査(2学期のみ)と期末考査(毎学期)を、それぞれ百点満点で行う予定である。
- ・グループ学習による発表学習については、担当教員の評価の他、生徒相互による評価も行い、担当教員が実際の評価を決める際の資料として活用する。
- ・各学習のまとめ段階では、自己評価や相互評価も活用する予定である。